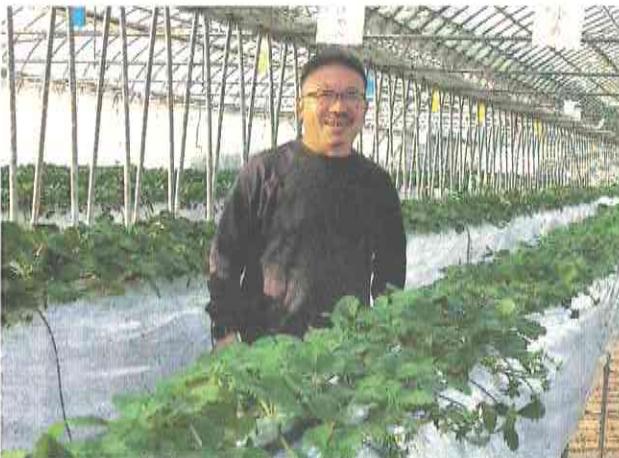


工夫重ね集客数順調に増加

松伏町 ファームティーエス

男性客の居場所も確保し、週ごじや
すい農園づくりに努める白倉代表



お客が楽しめる観光農園を

【埼玉】松伏町の株式会社ファームティーエス（白倉正浩代表取締役、51）は、

2019年に農業法人（株）しゅん・あぐりと中堅ゼネコンの鉄建建設㈱が共同出資した法人。翌20年1月からイチゴの観光農園「コロコロいちごファーム」を開園している。

「15歳の5連棟ハウスに約1万株を栽培したが、コロナ禍での開園となつたので本当に心配だった。今は順調に集客も伸び、これからが本番」と話す白倉代表。2年目となる21年の来客数は年

間約3千人で、1年目に比べ大幅に客数が伸びている。

農園のコンセプトは『ゆっくりゆったり心地よい農園』。摘み取りしやすい高さ約90㌢の高設栽培で、甘みや酸みなど

が異なる2品種（紅ほっぺと章姫）の畝を交互に

設置。移動しなくても食べ比べができる、車いすやベビーカーも通れるスペ

ースを確保している。

また、観光農園では珍しく各組にテーブルと椅子を用意し、人混みや女性が多くて居づらいとい

う男性の居場所も確保さ

れるよう工夫している。

白倉代表は「観光農園は

サービス業。積極的にお客様に話しかけ、どう

したら過ごしやすい空間

となるのか試行錯誤して

いる」と話す。

コロナ禍でも集客数が伸びた理由は、ホームページの工夫や有名旅行予約サイトへの掲載、午後まで開園し、周辺の観光農園で入れなかつたお客様を取り込む工夫ができたことが効果的だったという。

今後は第二の観光農園を計画しており「イチゴ

お客さま全員が楽しめる農園づくりを追及していく」と抱負を語った。